



# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第1次整備提案書

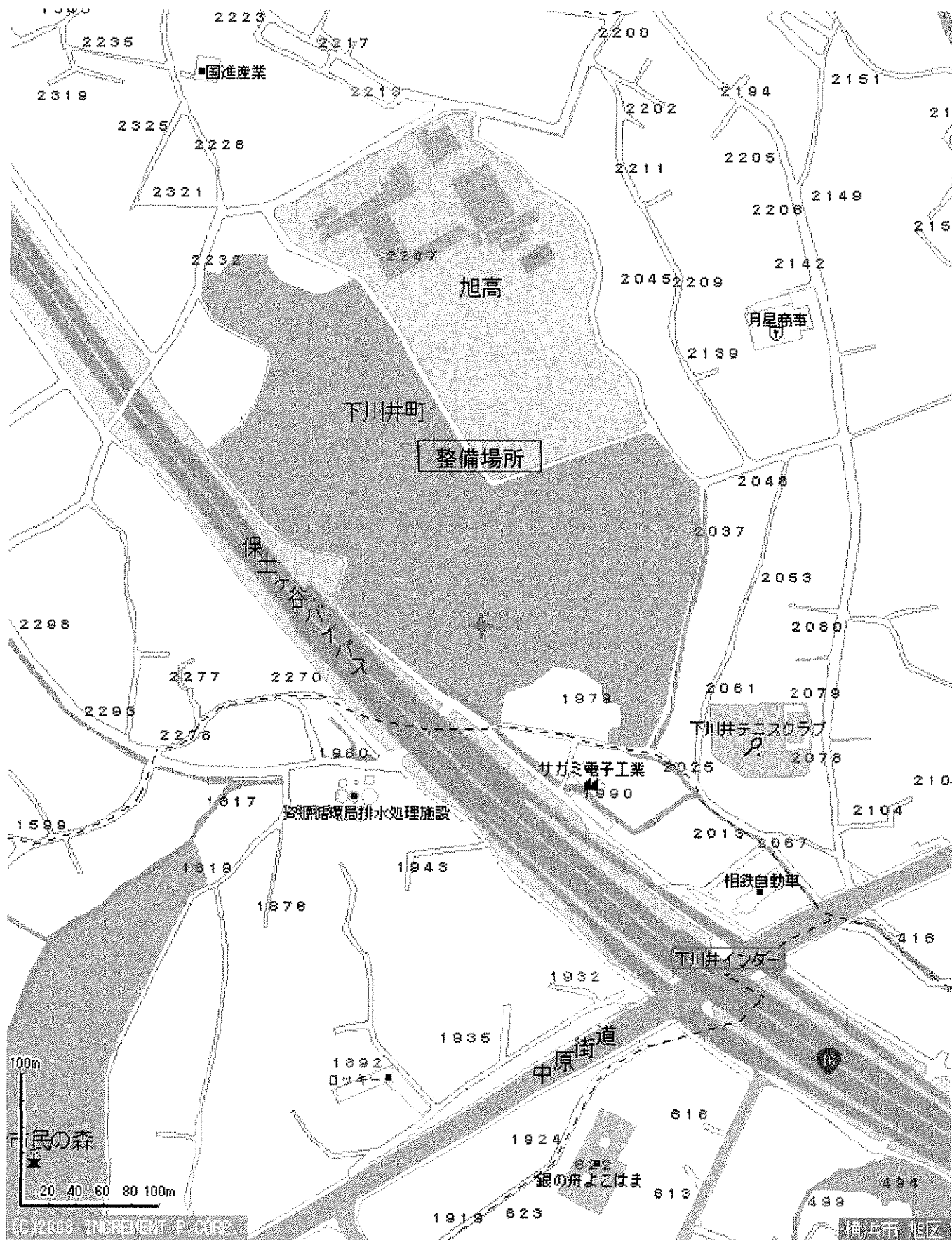
整備提案名	森に隣接した旭高校外周道路のコミュニティ空間化
提案グループ名	よこはま里山研究所 川井緑地森づくりプロジェクト
グループの現在の主な活動内容及び最近5年以内の活動実績	川井緑地特別保全地区における森の保全活動を月2回実施 <主な活動内容> 草刈り作業；年2回、 竹・中層樹木の間伐；年8回、 間伐材の薪やチップづくり；年8回、 伐採木の製材；年6回、 落葉樹の植樹および苗木づくり；適期、 石窯の保守と活用；随時、 ヒラタケの栽培；随時、 つる籠づくり；秋から春
整備場所の所在地 (町名又は丁目まで記入)	旭区 下川井町（川井特別緑地保全地区） ※位置図及び現況写真（各A4判1ページ）を添付しました。
整備提案の内容 (どのような整備を提案するのか <u>文章</u> で記入)	川井緑地の森に隣接する旭高校の外周道路沿いに設置している鉄板塀を撤去して、森の中が見わたせる低いフェンスに換え、高校側の土留めの下に花の咲く低木を植樹します。また、森の保全作業により発生した間伐材で作ったベンチ等を道路に置いて地域のコミュニティ空間とします。さらに、高校生や地域住民の参加を得て、森の保全活動で生じる間伐材等の活用方策の検討や試行を行って行くために、森の作業拠点となる10㎡程度のログハウスや作業デッキ、資機材の置き場などを間伐材を活用して建設します。 整備費用の概算額：約 500万円 ※整備提案のイメージ図と作業状況写真を添付しました。
整備提案の動機や背景 (整備に対する地域のニーズや整備によって解決できる課題や整備の必要性などに触れながら <u>箇条書き</u> で記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川井緑地の森に隣接した旭高校との間には高校所有の道路があり、人通りが少ないため、森への不法投棄が絶えなかったため、一部は鉄板塀で遮蔽されています。</li> <li>・ 鉄板塀がない所からは大量のゴミが投げ込まれていたため、地域や高校生の協力を得て、5年間にわたる処理作業を行いました。</li> <li>・ 今では高校側の調整により道路の車両通行止めが実現し、不法投棄ができない安全な場所に生まれ変わりました。</li> <li>・ そこで、高校側の立派なソメイヨシノの列植や保全作業で軽快になった森に囲まれた道路を「地域の名所」として親しまれ、四季折々の変化があるコミュニティ空間に変貌させたいと考えました。</li> <li>・ 旭高校でも、年一度の清掃作業だけでなく、森の作業や発生材活用にも参加する意向があります。</li> <li>・ 一方、約5.3haの川井緑地は、都市緑地保全法に基づく「特別緑地保全地区」として都市計画されていますが、森の管理作業は所有者任せで、手入れが成されない状態でした。</li> <li>・ 平成14年に横浜市が制定した「森づくりボランティア団体育成・支援制度」により登録された団体として、川井緑地での活動を平成15年度から定期的に開始し、現在では月2回の活動を行っていますが、広大な森の保全作業には多数の人手が必要となるため、新たな担い手を育てる必要があります。</li> <li>・ また、森の保全計画では、まだ大量の間伐が必要ですが、発生材を外部へ持ち出して処理することは、作業的にも経済的にも不可能であり、森の保全を持続的に行うには森や周辺での活用が望まれます。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生する間伐材等を森の中に放置したままでは不審火などの心配もあり、積極的な活用策を見出さないと保全作業自体も停滞してしまうことが課題となっていました。</li> <li>・ 小型の機材を用いた薪やチップの作製、製材加工など様々な活用方法の試行は既に行っており、作業の知識やノウハウの蓄積は少しずつ進めてきました。</li> <li>・ そこで、安全で快適なコミュニティ空間を将来にわたり存続させるための作業拠点として、森の中に作業や道具の保管場所を合わせて整備する提案としました。</li> </ul>
<b>整備の効果</b> (整備したい施設がどのような人たちに利用され、地域にどのように貢献すると考えますか?)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良好に管理された森や四季の変化ある景観が体感できるコミュニティ空間に地域住民や旭高校生が日常的に触れることで、緑の地域資源を大切にする意識が醸成されます。</li> <li>・ 規模の大きな森を将来に向けて良好かつ快適な状態で存続させるための住民参加が進むことで、保全作業が安定して継続的に実施できるようになります。</li> <li>・ 森の拠点施設は、保全活動への新たな参加者に対する研修などにも利用できます。</li> <li>・ 間伐材等の具体的な活用状況を展示することなどにより、新たな暮らし方の実践を体験する場となります。</li> <li>・ さらに、他の地域で同様な活動を行っている団体に蓄積した活用ノウハウ等の情報を発信できます。</li> </ul>
<b>整備した施設の維持管理・運営</b> (整備施設の維持管理や運営に、提案グループや地域住民等がどのようにかわるか?)	旭高校との意思疎通はできているので、グループメンバーは元より、旭高校の生徒やPTAとの連携による継続的な保全作業やコミュニティ空間のレベルアップが可能です。また、地域の町内会にも広く活動状況を広報し、参加者を増やす工夫を行う予定であり、良好な維持管理が行えます。
○提案内容におけるアイデアやユニークさ ○提案を実現するために活用する地域の資源 ○その他提案について特にPRしたい点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不法投棄に悩まされていた道路を車両通行止めの機会を捉えて、すばらしい森の景観に触れられる安全快適な空間に転換させること。</li> <li>・ くつろぐためのストリートファニチャーは森の保全作業により発生した間伐材を活用すること。</li> <li>・ 作業拠点の設置により、間伐材活用の検討や試行を行い運用することで、継続して効率的な森の資源循環が図られること。</li> <li>・ この循環は、他の樹林地保全においても汎用性があるので、資源循環や脱地球温暖化の良好なモデルとなること。</li> </ul>

整備場所の地権者等への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
旭高校 森の所有者（大部分を所有する方）	森の景観に触れ、間伐材活用などに生徒が参加できることは、教育的にも好ましい。 森の保全活動がなお一層の活性化されて、間伐材なども無駄無く生かせる提案には賛成です。

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報は含まれていません。



整備場所位置図



外周道路（右手が旭高校、左手が川井緑地で鉄板塀の切れた先が不法投棄場所）



外周道路（左手が旭高校、右手が鉄板塀のある川井緑地）



森の中の間伐状況

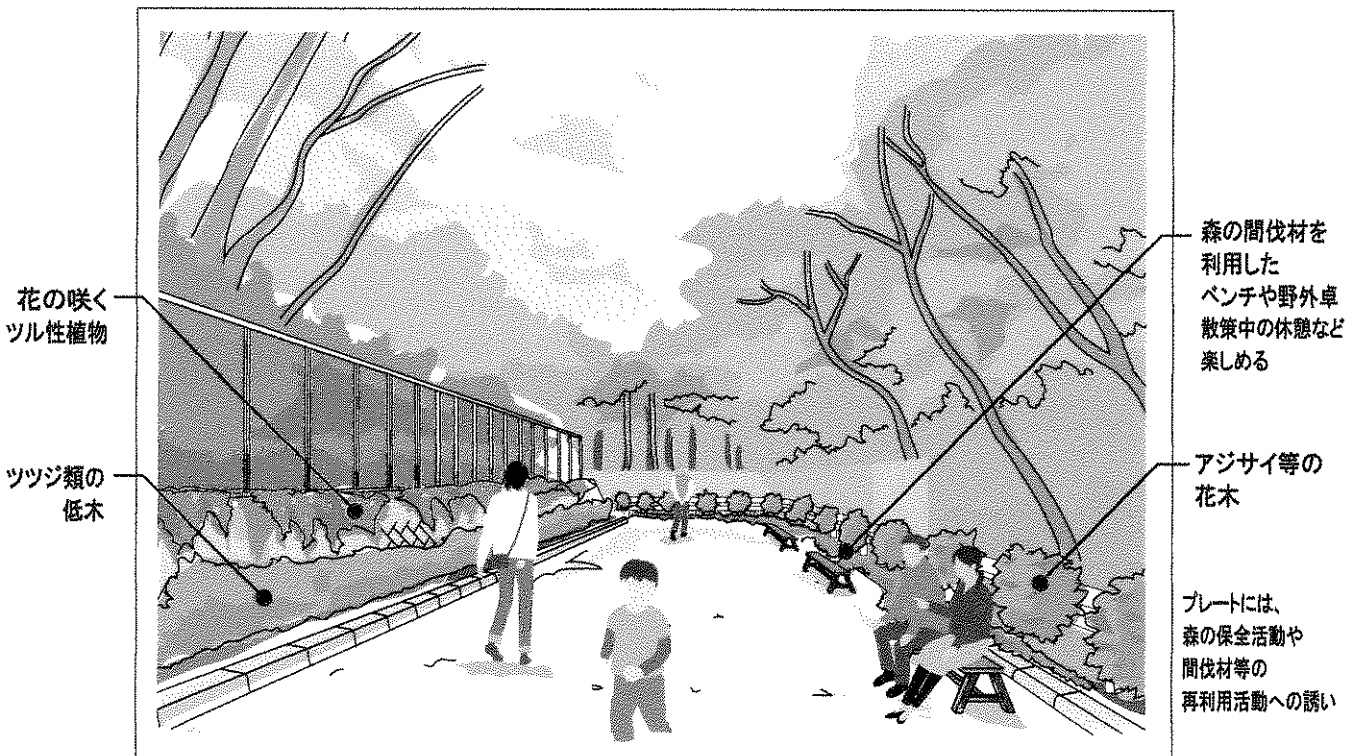


製材の状況



## 現 況

車両通行のない安全な空間だが、長居したい雰囲気はない。



## 整 備 後

手入れされた森と高校の桜並木、ゆったりと空間の雰囲気を味わえる。